

コンサートレポート

東金シニアアンサンブル

第5回演奏会

5月19日、第5回演奏会を東金文化会館小ホールで開催しました。当日は、地域の交響楽団が同じ会場の大ホールで演奏するため、開演時間をいつもより30分早めて13時30分の開演にしました。指揮者がいつも言っている「気持ちよく演奏して、それを聴いてもらう。」という教えを忘れずに、いつものように緊張しながら開演に臨みました。

一部は、「日本の花、世界の花めぐり」と題して「百万本のバラ」「ひまわり」「花祭り」他の8曲。うち2曲は来場者と一緒に歌いました。二部は「人生いろいろ、愛のドラマ曲」と題して「エデンの東」「糸」「慕情」他の5曲。更に「乾杯の歌」と「結婚行進曲」のクラシックを2曲。最後に、「アンコール曲」として「宇宙戦艦ヤマト」と「青い山脈」で締めくくりました。

アンコールを入れて17曲。老いた身には少々きつくなってきましたが、私たちはこうした活動を通して音楽からたくさんの方をもらっているように思います。団員の皆さんがいつもお元気で若々しいのも音楽のおかげかもしれません。

最後に、今回の演奏会で残念だったことがありません。楽団の創立以来、今まで大変ご尽力された団員が3月に突然亡くなられたことです。心よりご冥福をお祈りするとともに、私たちがこれからも演奏し続けることが、故人の遺志を継ぐことであると思います。これからも次の演奏活動へ向けて頑張りたいと思います。

副代表 金澤貞男



東金シニアアンサンブル・第5回演奏会

市川シニアアンサンブル

第6回定期演奏会

本楽団は2009年の発足で、創設15年目の今年5月に第6回定期演奏会を開催しました。大勢のお客様に来ていただき、413席の会場は初めて満員となりました。満席となったのは、これまで積み重ねてきた本楽団の演奏会が市川市民の皆様にご定着して来たためと思われまます。演奏は、第一部のクラシック5曲、会場の皆様との合唱2曲、第二部のポピュラー5曲、そしてアンコール曲を含め全17曲でした。

終演後のお客様や記入して頂いたアンケートから「楽しかった」という声が多く聞かれました。皆さんに私たちの目指している音楽が少なからず伝わったものと感じました。

定演後に5名の入団希望があり、これにより34名となりました。今年、来年開催の「ミニコンサート」に向けて、フレッシュな気持ちで新曲の練習に取り組んでいます。

代表 鎌田光博



ラルゴ室内合奏団

第6回定期演奏会

コロナ禍で、先の演奏会から何と5年を経過して今般6月6日に、調布市仙川の「せんかわ劇場ホール」で、開催しました。当劇場は、著名な建築家安藤忠雄氏に設計を依頼して建設された総合舞台芸術施設です。

当日は、平日木曜日の午後1時半開演という時間制約もありましたが、ご自身がチェロを演奏され、その仲間が今日の舞台に上がるといふので、わざわざ八王子から駆けつけて下さった直木賞受賞作家さん、元プロオケ・パート首席で現在は後進の指導に当たっておられるフルート先生、音楽教室を主宰され、こちらも今日のおが生徒や如何かと心根やさしい先生等々、加えて出演者の家族・知人ではぼ客は埋まり本番スタートです。

第一部は、当団きつての腕自慢によるクラリネット・フルート・ヴァイオリンの独奏をアンサンブル全体が支えて、ヘンデル「ラルゴ」の「精霊の踊り」、ヴェイヴァルディ「調和の霊感」へと曲が進むに連れて、一体感も逐次醸成されてきました。

第二部は全員合奏による曲を取り揃えました。ホルスト作曲「ブルックグリーン組曲」を中心に2曲小曲を挟み、メイソンの「グリーン組曲」では、ホルストが当時教鞭を取っていた学校で10代の女子学生のために作曲されたこの曲を、今その何倍もの人生経験をつんだ私たちが、第I楽章から第II楽章へ、続いて第III楽章へと進め、いよいよアンマートで終局へ全員一丸となつて雪崩れ込んでいきました。

思えば、この5年間に黄泉へ赴いた方々が複数おられます。また、今日の演奏会を目前に病を得て残念ながらこの舞台に立てなかつた団員もおられます。各人それぞれ万感の思いを胸に、若い松本先生から若いエネルギーを吸収して、新たな一歩を歩き始めます。

ラルゴ室内合奏団 小林忠雄

